(第三種郵便物認可)

(日曜日休刊)　(定價金四錢)

時事新報

第千三百二十二號
明治十九年七月八日 木曜日 (己巳)
舊丙戌六月七日
日出午前四時五十二分 日入午後七時十七分 月出午前十一時四十三分 月入午後十一時四十九分 滿潮午前十時四十七分
(西暦一千八百八十六年)

時事新報

士人商賣論

高橋義雄

我國れ士人にて當時四五十歳の人々の身分と見れば儒者を以て自から任ずるあり官途の險を踏むものあり或は文人墨客たるあり文人墨客儒者官吏其事業は樣々なれども凡そ人間の弱點として身を或る事業に委ぬる程ます〳〵其味を覺ね天下之より樂しきものなしと感ずるものなり一室の内に和漢の書を積み二十二史に眼を曝らし經書百家の言に就て時れ古今を回想すれば興亡の感少なからず丘明馬遷の文を讀んで其味の妙處に至れば案を拍て愉快と稱し孔明の出師の表みれ涙を流し胡澹庵の封事には切齒扼腕、所謂千載の喜憂を抱くものにして其間れ味得て言ふ可らず時に本朝の史を繙けば史論の得失一ならず王權衰て相門振ひ相門衰て將門起り源平の交迭北條足利の興廢より戰國群雄の割據、豐臣の統一、德川の文治、孰れも日本史の大關係として最も注目する所なり尚風雅文章の部分に入れば名士才女の筆跡追慕するに堪へたるものなり閑として平家物語に至れば祇園精舍の鐘の聲諸行無常の響あり紗羅雙樹の花れ色盛者必衰の理を示し榮枯盛衰の跡りあき感慨の轉さ切なるを覺ゑざるを得ず或は時に筆削に從事し奇文成りて之を朗讀すれば其愉快言ふ可らず滿窓風雪妻兒臥し、揮筆鏘然紙有聲などの趣は儒者の最も得意とする所なり

官吏と爲れば又自から官吏の樂なり我國にては古來人民が官の貴を貴ぶの風なりて官吏とさへ云へば今の俗世界に於ては躍ぎ之を優待し偶田舍地方を巡廻それむ戶長郡長小前の者共平身低頭して之を迎へ到る所に鼻自ら高く、官吏の身に取りては一種の愉快と申すべし又其事務は餘り忙しからずして俸給は餘り少なからず殊に一局の長官とも爲れば威福の權漸く大に出入の部下配下の小吏我が顏色を伺て一顰一笑皆な其喜憂とならざるなき尙は立身りて官員中の大頭株と爲れば利害の關係いよ〳〵大に我國にては歐米諸國の政治家が議會人の中に立て一場の演說を試み喝采の聲沸が如く世の耳目を己れの一身に集むる抔云へる場合はなけれども上向きの官吏となれば夫れ相應の威福ありて人をして畏憂せしむるを得べし即ち人をして己れの髯の塵を拂はしむるものにしく之を拂ふ者の不愉快なる程に拂はるゝものは愉快なり此等は官吏の最も得意とする所にして其の畢生の樂は槪ね此の邊に在つて存するが如し

文人墨客れ社會に入れば其趣大に異にして窓明に几淨く床の間の掛軸は支那畫の山水、書物古器物と並び列なり瓶花の趣甚だ雅あり興來りて筆を揮へば蠻烟龍蛇紙上に迸り其快得て言ふ可らず同好の客來りて柴門を敲けば之を迎へて談話甚だ清く曾て人間塵俗の事を知らず窓外の鳥聲耳を娛ましめ松濤竹韻も音樂の如く主人茶を煮れば鼎中の湯漸く沸き蟹の眼プツ〳〵魚の眼クツ〳〵頓で三椀を喫すれば腋下風を生ずべし興に乘じて林泉を徜徉すれば己れも亦畫中の人なるべし此邊の趣は自から仙人世界にして南面の樂と雖ども亦之れに換ふ可らずと思ふとならん

今の士人中の老輩は封建時代優長の世に生きて大抵此邊れ嗜ミに耽り之を以て無上の快樂と爲すが故にます〳〵深くしてまそ〳〵其味を覺え各其樂を樂として一生涯を托するのみならず其子孫を率ゐて其樂を共にせんとするもの〻如し本來人間には似我主義と云へるものあり父も子に向て第二の我あらんことを望み子も亦父の業を繼ぐことを勉め儒者は其子に教ふるに己れが當て學びたる道を以てし一家相傳第二の儒者たらしめんとし官吏は其子を官吏に仕込み文人墨客は其子をして己れの樂を樂ましめんとするが如くなれども畢竟人間の弱點と云て己を知て他を知らず自分の事業を以て恰も天下無二の想を爲すの結果なるの斯くて彼の儒者官吏文人墨客等の眼を以て己れの樂とする道の中より世間商賣の事業などを見れば朝から晩まで齷齪として人に向て機嫌を取り惜氣もなく頭を下げ二一天作の五若勞千萬何んぞ其卑屈殺風景なるやとて固より之と顧みず、まして其子孫を推して此餓鬼道に入らしむる抔とは思ひも寄らぬ次第ならん即ち今の士族氣象と持ちものも古來町人を卑しめ金錢を輕んずるの習慣に制せられ獨り自から其事業を高尙なりとして時世の變遷、事業の輕重大に異なるを知らず儒者官吏は今後も亦其業を受け繼がしめんとし此中より進んで商家の門に入り國の爲め身の爲めに大に財產を作らんとするが如きの考あるもの甚だ少なきは遺憾なりと申す可し

古來仕來りの業を業として他の業に遷るを嫌ふは獨り士族氣象を持つものに限らず日本人一般の氣風に於て然るもの丶如し近頃地方の或る漢法醫者が出京して余の許を訪ひ種々談話の中、余は先づ其業れ景氣如何を問ひしに醫者答へて不繁昌なりと云ふ、然らば今より其業の趣を改めて時世に適するの工夫は如何と云ふに醫者は當惑の顏色にて御說御尤千萬なれども漢法醫は一家相傳の業なれば拙者の代にて之を改むるは祖先に對して相濟まず此義は御說に從ひ難しとの申分にて毫頭轉業の模樣も見ゑざりき、右はチト特別の例なれども先祖は業なればとて代々相繼ぎ時世の變遷にて如何程古る臭きものと爲るも之を改むるを嫌ふは日本人一般の風習なるが如し即ち人間の惰性にして西洋諸國にも其例なきに非ざれ共西洋人は我國人よりも餘程活潑の趣あるを見るべし英國倫敦經濟雜誌の記者たりし故バヂホット氏れ遺稿英國經濟(English economy)即ち英國經濟講究錄の資本運轉篇に資本の最も運轉するものを三何に區別し第一投機資本第二公債資本第三轉業資本と爲せしが今其轉業資本と云へるものは農業を爲したるものが俄かに商業に移り商業家が變じて製造家となる等此業より彼の業に轉ずる間に此より彼に運轉する所の資本ありといへ英國にては人民轉業の爲めに莫大の資本を動かし其動くや英國の經濟社會にて資本運轉の一箇條と爲るを見れば英國人は時世の變遷と共に其職業を移轉して先祖傳來の業に安んずるものに非ざるや明白なり即ち英國人中には其一代の間に幾回となく轉業するもの多きに引き替へ日本人は自分の轉業と申すもなく子々孫々永く其業を守らしめんとし儒者の子は常に儒者、官吏の子は何代ありても官吏にして今の殖產世界に立ちながら其子孫をして商業殖產の業に就かしむるの決斷なきが如し畢竟己れの仕來りたる業を以て此上なきものと爲し商賣殖產の事は一槪に無味殺風景なりと思ふならんなれども商賣殖產其道に入りて其味を覺ゆれば此中得て言ふ可らざるの樂境あるを發見するとならん試に身を商賣の業に委ねきば其面白味は文人墨客儒者官吏に譲らず商賣人の樂は商賣して金を得て其金を以て世上萬般の權力を得て有形無形の樂を得るに止まらず尙此外にも商賣の見込掛引は其事柄非常に面白し今非箱の側に坐して世間商賣の形勢を察し人を知り己を知り斯くすれば云々の儲けあらん此物は近き內に流行す可しなど千々に其心を碎きて按て之を事實に行ふに其見込果して的中、一度取引して幾百千圓の利益を得れば其前の儲かりたるを外にして唯其見込の當りたる丈にて一種の愉快と爲る可しなり或は偶然にも失敗なることもあらんなれども失敗も亦痛むに足らず其失敗を以て一つの經驗となし後の戒と爲して未來の勝算を案ずれば負けるは勝つの基と爲り決して落膽するに足らず世に釣魚を樂みとするものあり餌を鉤につけ之を水に投ず、魚來りて鉤を含む時直に其竿を上ぐ、竿を上ぐる度に適きて魚手に入り其度を失へば魚去て餌を失ふとあり左れども釣魚の術漸く熟し竿の上下度に適すれば銀鱗潑剌鉤に上る、其興味言ふ可らず斯く〳〵一生涯を釣竿に托して江湖に遊ぶもの少なからず商賣は經濟世界にて金を釣るの術なり其術漸く熟すれば所謂飯粒を以て鯛を釣るの塲合もあらん且つ其掛引は一尾の魚れ比に非ず一擧して幾百千圓と釣るの趣向あれば利害の關係大にして興味の深きを測り知る可らず世間或は商賣して金を儲けるものを見て彼れ一生貯金に從事し年已に老もるも心の儘に奢を爲さず金は如何程溜まりたりとて地獄へ持參する譯にも往かず馬鹿々々しきことなりとて之を誹る者もあれ共金を溜めたる人より云へば金を使ふが面白きに非ず唯其金の溜まるとが愉快にして其趣は古鐵癖家が古錢の一文にても多く溜まるを樂むと爲すが如し今年は幾萬圓、來年は幾十萬圓と次第に其金の高を增せば其增加するを見て一種の愉快を感ずるものなり左れば彼の老て金を溜むるものは其金を遣はずして死に至るも其樂の目的も既に達しるるものなりと云ふ可し試に見よ人手づから柿の核を蒔て其芽を發するを見れば愉快に非ずや萌芽次第に生長して一本の柿の樹と爲り頓て柿實の紅熟なるを見れば滿足に非ずや今幾十金を以て商賣を始め次第に增殖して幾十萬圓と爲り遂に一個の身代と起すは柿の核を蒔て芽を生じ頓て鬱然たる大木と爲ると一般、其樂は柿實を食ふと否とに在らざるなり人間困難に打ち勝を樂みとするの情に於て言ふに言はきぬ興味あるとあらん左れば商賣殖產の境界に於ても種々の樂味あるを決して他の事業に讓らず世間の士人も唯其事業の樂のみを樂とせず商賣殖產れ世界にも亦一種の樂あるとを發見し其子孫をして商賣社會に入しむるとを今の經世家に取りて最も肝要の事ならん蓋し時世の變遷にて事業に輕重なき能はず昔人邊境に膺塵の起るを開き筆を投ふて劍を買ひたるものあり今や世は殖產商賣を事とし特に外國貿易の振否は國の興亡にも關するとなるべし此時に當り牙籌の功は干戈刀筆の功に孰きぞや今の士人たるもの功を成さに其事業の輕重を知らざる可らず尙此事に關しては近著拜金宗中に詳論せる所あるあり

官報

○辭令

御用有之歐米各國へ被差遣　海軍大臣伯爵西郷從道
海軍大佐　柴山矢八
海軍二等技師　原田宗助
海軍大尉　舟木錬太郎
海軍中尉　吉井幸藏
海軍中尉　日高正雄
海軍中主計　片岡直輝
(各通)

海軍大臣西郷從道歐米各國へ派遣ニ付隨行被仰付(以上七月二日內閣)

●虎列剌

流行地	月日	新患者	新舊死亡
廣島縣	七月四日	五十九人	四十二人
大坂府 (但シ四區西成郡ニ新患四十九人新舊死亡四十九人)	七月五日	百三十七人	百十三人
京都府 (但シ上下兩京區ニ新患四人新舊死亡七十八人)	同	十四人	二十一人
兵庫縣 (但シ神戸區ニ新患二十一人新舊死亡三十一人)	同	五十八人	四十七人
岡山縣	同	十九人	十三人
廣島縣	同	三十二人	二十人
和歌山縣	同	九人	五人
愛媛縣	同	二十六人	十六人
合計(七月五日)		二百八十七人	二百三十五人

○流行地外虎列剌　神奈川縣一昨五日區並に郡新患十五人、新舊死亡四人にして去月二十七日より本月三日迄一週間合計新患五十一人、新舊死亡二十五人」新潟縣去月二十七日より本月三日迄新患一人」埼玉縣去る一日より五日迄新患三人」群馬縣昨六日新患三人」長野縣去る四日新患一人」三重縣去る四日新患七人、新舊死亡五人」愛知縣去る二日三日新患十二人、新舊死亡六人」福岡縣去月二十日より三十日迄新患十一人、同死亡三人あり(以上本年七月七日官報)

雜報

○ゴルドン將軍の肖像　英國の美術家ボーエン氏が兼てより工夫を凝らして造り出したる故ゴルドン將軍紀念の塗喰製の肖像は此の程出來上りセント ポール の堂內に安置せしが其手際れ巧妙なるのみならず能く故將軍の風采を寫して眞に迫り殊に是迄世に存在する將軍の寫眞は何きも將軍の眞を寫し出したるものなきにこの肖像は獨りよくその眞面目を描出して毫も遺憾なしとて倫敦府中にては作者の評判甚だ高し將軍の肖像は機關總監の軍服を着け左の肩より右の脇へ掛け上着を纏ひ右の手は高く胸の邊に横りたるが左の手とバイブルの上に置けり而してその基礎の裝飾は將軍の日記中に記載しありしカルツーム の學校の形を浮彫になしたるものなり茲に不思議なるはゴルドン(Gordon)といふ字は阿蘭語にて鎗(Spear)といふ字なるが又支那にてもゴルドンの字に相當する文字は鎗兵 (Spearsman)といふ意味なりとか夫は扨置きこの肖像のある位地は セント ポール 寺內の北の方なる廻廊の眞中にして其次の堂には英國軍艦カプテイン號の乘組士官及水夫の位牌を安置しあり其中には傳令官たりし將軍の甥某氏及將軍の實兄ヘンリー ゴルドン 氏長男れ位牌もあり又其後面には之も同じくボーエン氏の工作に係るハーバート ステワート 氏の肖像を近々安置する筈なりと

いふ
○僞聖の二の舞　去る
人のアッピヤ人と率ゐ
てたるを以て直に兵隊
の首を刎しが僞聖マー
○大坂通信(七月二日發
川崎造船所へ注文した
來る十日同會社にて受
運轉式を擧行せるに付
御長次官并に府會議員
地第三高等中學校れ目
を以て同試驗を了り來
又本年度は各級生徒二
是迄の大學分校の教則
を用ゆる事となし又授
者には舊籍を仍現する
りと○大坂砲兵第二方
瑞西國へ綿火藥の(地
軍艦某號にて四百三十
まて之を受取り山城國
此火藥は我國にては未
又京都府にて官林一萬
面へ引渡せしが右火藥
の費用を以て百坪の火
方面島田提理が實地と
本年召集したる憲兵合
の廣島丸にて上京東京
發電せし如く鄉大藏次
四時二十五分發汽車に
せしが同氏は本日砲兵
去りたりと昨一日造幣局
同日午後六時造幣局に
將其他佐官四名建野府
坂出張所の山內書記官
マクアゴン氏砲兵工廠
ロ氏等總て三十五名と
長は宴會に先ちて同局
鄉氏は之れが答辭と述
に不充分の廉なきにし
して本年の試驗には充
かりしと云ふ
○巡査の英學　麴町警
名を撰拔して英學を學
來賓行中なる憲兵の英
差支なき旨同答に及び

A beautiful woman sm
美人が笑を含むは財布
Absence is a foe to l
不在は戀の怨敵なり目
"Do not intercept me, nor
to a friend, "for I am in a
replied his friend. "O, nothi
new bonnet, and I want to g
Traveler.
或る紳士が朋友に向ひ
玉ふな實に大急ぎの所
ヤ差したる事でもない
一つ買つたのだがまで
に時様が替つちや大變

○今日の縁日　日本橋
目、本所彌勒寺れ各藥師